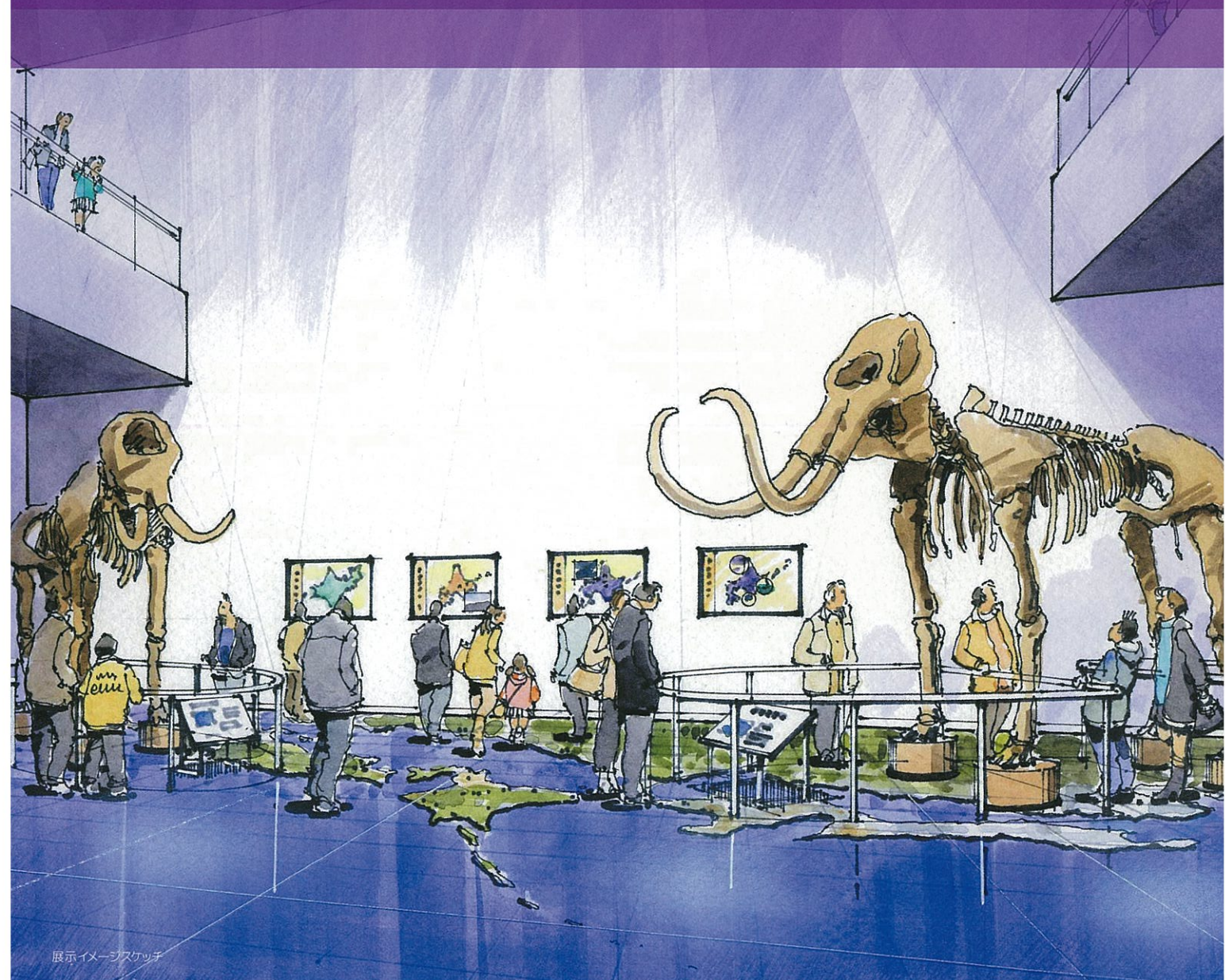


2015年 春

# 北海道博物館オープン

2015年春、北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターが統合して「北海道博物館」が誕生します。  
新しい展示の見どころをいち早くご紹介します。



展示イメージスケッチ



## お問い合わせ

北海道開拓記念館

004-0006

札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

011-898-0456 / FAX 011-898-2657

[www.hmh.pref.hokkaido.jp](http://www.hmh.pref.hokkaido.jp)

北海道立アイヌ民族文化研究センター

060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目 緑苑ビル1階

011-272-8801 / FAX 011-272-8850

[ainu-center.pref.hokkaido.jp](http://ainu-center.pref.hokkaido.jp)

※北海道開拓記念館は、2015年春までリニューアル工事のため休館しています。

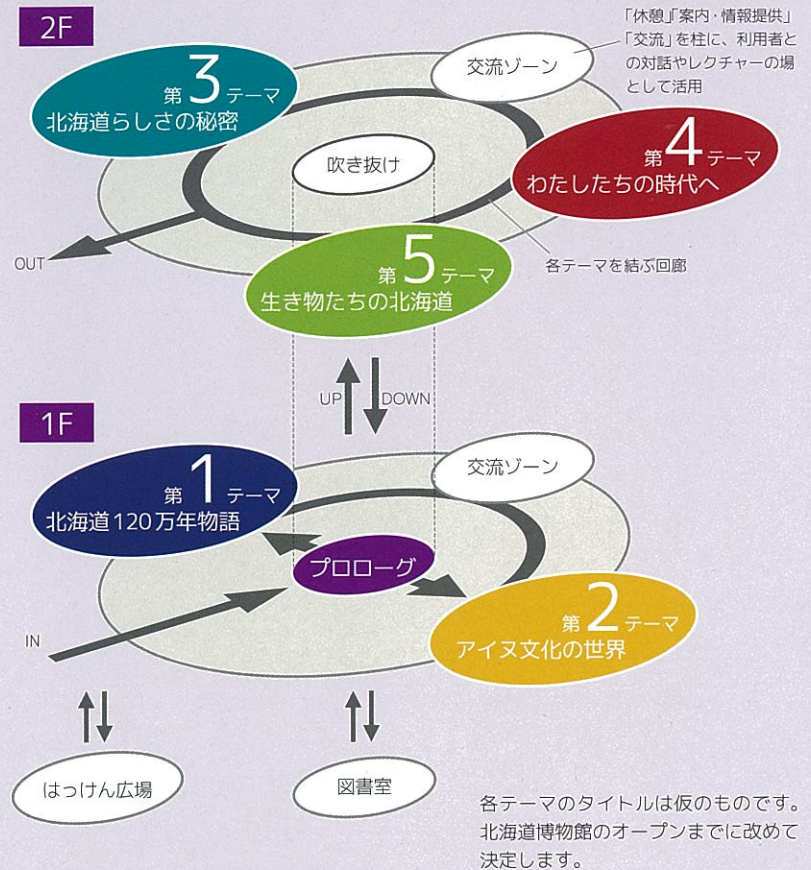
## 新しい展示のポイント

### 3つの新しい視点

「北東アジアのなかの北海道」、「自然と人との関わり」というコンセプトに加え、「アイヌ文化の歴史性」という視点を取り入れ、北海道の自然、歴史、文化を描きます。

### 5つのテーマ

1階から2階にかけて、5つのテーマを展開します。各テーマは回廊によって結ばれ、自由な順序で観覧できます。各階には「交流ゾーン」があり、対話や情報提供、レクチャーなど、さまざまな交流の場として活用されます。



## 第1テーマ

## ほっかいどう まんねんものがたり 北海道120万年物語

ココに注目！

日本史のイメージとはちがう北海道  
120万年のあゆみをタイムトラベル！

北東アジアを舞台とした人やモノの  
ダイナミックな交流を紹介！



第1テーマでは、およそ120万年前から、開拓が本格的に始まった19世紀のおわりごろまでの、北海道島とそこに生きた人びとの歩みを紹介します。

マンモスゾウとナウマンゾウ、北の旧石器・縄文文化の特徴、オホーツク文化・擦文文化の担い手やアイヌ民族による交易活動、日本列島本州以南からの開拓移住など、北東アジアの一角に位置する北海道島は、北から南から、さまざまな動物や人・モノが往来し、出会う場所でした。そして、そのような地理的環境の中で、北海道島独自の歴史や文化が形づくられてきたのです。



北海道で初めて発見されたナウマンゾウの足跡化石  
(中期更新世[約12万年前以前]、幕別町忠類)

## 第2テーマ

ココに注目！

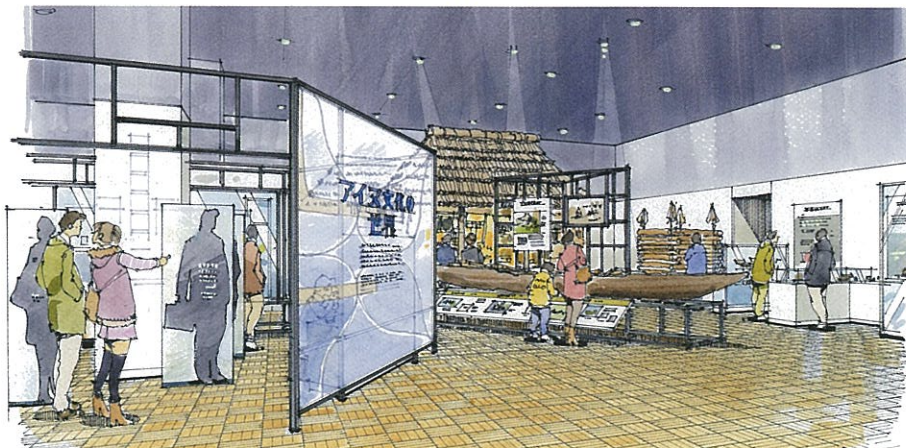
アイヌの物語を題材にした、  
オリジナルアニメ 初公開！

アタマをひねってアイヌ語に挑戦！  
アイヌ語作文パズル登場！！



額飾り[ホホチリ]のついたヘアバンド[ハトムイェ]  
(20世紀前半、樺太 オチホ)

## ぶんか アイヌ文化の世界



アイヌ民族は、北海道、サハリン(樺太)、千島列島などを暮らしの場として、さまざまな文化を育んできました。しかし、北東アジアへの日本やロシアなどの進出が本格化し、日本による北海道の領有と開拓などが進められるなかで、その生活や文化は大きな打撃を受けます。

第2テーマでは、最初に「アイヌ民族の現在」をとりあげ、次に、暮らしの道具、信仰、物語や歌など伝承されてきた文化を紹介していきます。さらに近現代を生きるアイヌのすがたをとらえ、これを通してアイヌ文化の世界を描きます。

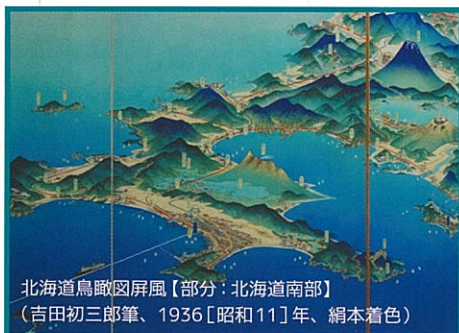
アイヌ語の物語や歌を聴き、楽器や刺繍に触れてみましょう。

## 第3テーマ

ココに注目！

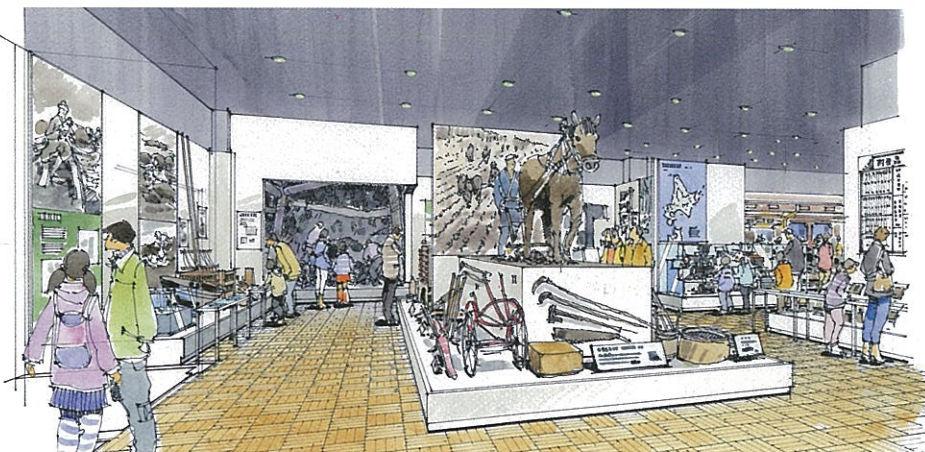
北海道鳥瞰図を  
鳥になった気分でながめてみよう！  
何がみえるかな？

北海道ならではのなつかしい音や  
香りを体感してみよう！



北海道鳥瞰図屏風【部分：北海道南部】  
(吉田初三郎筆、1936[昭和11]年、絹本着色)

## ほっかいどう ひみつ 北海道らしさの秘密



まず出迎えてくれるのは、昭和初期に吉田初三郎が描いた北海道鳥瞰図。明治期以降に大きく姿を変え、いまの北海道へと近づく歴史の一コマがよみがえります。

北海道独特の景観、海や大地の資源を活かし育ってきた数々のモノづくり、多雪寒冷な気候に適応しようと模索した生活スタイルなどなど、いまの北海道には「らしさ」がたくさんあります。第3テーマでは、産業や暮らしなどの歩みをたどりながら、歴史に裏づけられた北海道らしさの秘密を探してみましょう。

# 第4テーマ

ココに注目！

北海道の20世紀を語ろう！

くらしと社会とモノの変化を  
見つけよう！

## じ だい わたしたちの時代へ



第4テーマでは、20世紀のはじまりから現代までの北海道の歩みを紹介します。  
この時代、北海道の政治・経済、人びとのくらしは何度も大きな変化を経験  
しました。その延長に、現代の北海道があり、いまを生きるわたしたちがいます。  
この激動の時代がどのようなものか、そして人びとがどのように生きてきたか、  
できごとをたどりながら振り返ります。

これからの北海道を創るのは、わたしたちです。過去に学びながら、多様な  
価値観や発言・取り組みに目を向けて、将来への可能性を探ります。



木製戦闘機用に試作された主翼と補助燃料タンク  
(旧北海道工業試験場製作、昭和戦中期)

# 第5テーマ

ココに注目！

どんぐりコロコロころがして、  
生き物のつながりをたどろう！

のぞいたり、めくったり、  
いろんな生き物を見つけよう！

## い もの ほっ かい どう 生き物たちの北海道



明治以降のわずか百数十年、北海道の自然は、国内では例を見ないほど急  
激に変えられました。それでもなお、北海道には多様な自然環境があり、そ  
の中で多くの生き物たちが、食う-食われるなど、さまざまな「つながり」に  
よって生きています。そのつながりは、わたしたちヒトにもおよんでいます。

第5テーマでは、現在の北海道の自然と、その中で生き物どうしのつな  
がり、ヒグマやエゾシカ、サケなど、生き物の視点で見えます。そして、  
ヒトと自然の関係のこれからについて考えてみましょう。



海からの栄養を森に運んで力尽きたサケ  
(2009[平成21]年、北斗市茂辺地川)